

三崎會館托兒所

主任 保坂比露子

三崎會館には、児童に關する設備としては、託兒所、幼稚園、兒童遊園、夏期學校とありますて、其他に社會事業として、女中教養所及び徒弟教養所が御座います。

託兒所は大正五年九月十日に設立されましたもので、最初は十三名の児童しか通つて居りませんでしたが、近頃は三十九名の児童が通つて居ります。保姆三名で擔任して居ります。毎日朝七時から、夕五時半までこし、一日託兒代二錢とおやつ代二錢、總計四錢の費用を子供達に持參させて居ります。お晝飯過ぎには西洋の習慣に従つて、必ずお晝寝をさせる事に致して居りますが、お晝寝は子供自身にこつても身心を休めて大變結構でござりますし、保姆達にこりましても、一日一寸の油斷もせずに危い子供等につきそふて居りますから、身心の疲勞も多うございますから、子供の晝寝の時間には、矢張り保姆も休養いたします。西洋の方々は、保姆達の休養と

いふ事を大層重んじます。休養しなければ、いつもにこやかにして快活に、子供等の相手をする事が中むづかしうございます。

毎年の傾向でございますが、特に今年は甚だしいと思つて居りますのは、託兒所に通ふ子供等がどうも低能に近いやうな子供が多くて困ります。此處は神田でござりますから、本所深川邊のやうに、労働者階級の子供達が來るのがありませんで、此の邊に住んでゐる中流階級の子供達でございます。しかし母親が一日子供の相手をして居る事が出來ない人々でありますから、父親が飲酒家で餘り家庭の事情がよくないとか、或は母親一人であるとか、又母親がタイピストであつたり、小學校の先生であつたりする人々の子供が多うございます。“それにしても、幼稚園に通學して來る子供達とは、毎年段違ひに託兒所の子供の性質なり健康状態なりが劣つて居りますので、私共は大いに研究しなければならないと存じ

て居ります。

託児所に附屬して、母の會といふのが、毎月一回づゝ催されます。これは託児所に集つてゐる母親達の會であります。書催されるこもあれば、又時としては皆の都合で夜催されることもあります。守らなければならぬ義務として獎勵してゐます。せいか大抵二十五六名は必ず集ります。三十分精神修養として、聖書をよみ、祈禱をさゝげて、時々は立派な先生方をお招きして、衛生講話等をして頂く事もあります。その後は親しい茶話會に致します。この會は、家庭の向上の爲め、又私共、家庭との連絡をとる上に、大層よい機關になつて居ります。

幼稚園は「愛の園」と云ふ名で知られて居りますが、こちらの教會に居られました神學博士アツキスリング氏夫妻に依りて始められたのであります。只今アツキスリング氏夫妻は米國に歸つて居りますので、ミス・クロスビーが其の代理となつて居ります。只今七十名程の男女の兒童が居りまして、保姆四人を以て教へて居ります。幼稚園は半日であります。月一圓の月謝（入園料は五十錢）で致して居り

ます。唱歌、遊戯、談話等、總て幼稚園で行ふことは皆して居ります。

児童遊園を申しますのは神田邊は商業地で混雜した町で、児童の遊び場等がありませんから、小學校生徒に放課後の遊び場を與へて居るわけで午後三時から五時まで、屋上庭園（七間に十間の廣さ）を開放致して居ります。これも二三十名づゝ毎日遊びに来て居りまして、監督の先生がついて居りますから、決して危険な事はありません。

夏期學校は、八月一ヶ月間五十錢の月謝で催されるのであります。夏避暑の出來ない子達の爲めに此處を遊び場として、暑中を楽しく過させる事にして居ります。精神修養になるお話を聞かせたり、手藝を教へたりします。

女中教養所と徒弟教養所とは、より以上の學業を治める事の出來ない少年少女達の爲めの夜學校であります。

徒弟教養所は、夜七時から九時までやあつて、讀書算を主として教へ、精神修養の講話をします。此處に通學して來ます少年達は、十二三名あります。魚屋とか豆腐屋とか、或は用達をしてゐる者など

ありまして、商店の小僧らしい、きちんとした角帶の連中の見えないのは、ちよつと不思議であります。が、近頃は商店等の店員は學問が相當に有りますし、神田邊の大商店では、夜學にわざ／＼先生を雇つてしてゐる所さへありますから、そんな關係だらうと存じて居ります。皆は實に熱心に勉強して居ります。

又女中教養所は、大正七年二月七日に始められたものであります。火、水、木、金の四日、夜七時から九時半まで教授して居ります。火曜は學科で、一の組は尋常四五年生の程度であり、二の組は實科高等女學校の程度で、珠算、作文、讀書、習字、衛生等を教へます。水曜は、精神修養と、裁縫、木曜も裁縫、金曜は裁物の實地及び理論を教へます。裁縫と看護法には、常に力を入れて置きまして、裁縫も袴やコート位はこにかく縫へるやうにし、看護法では體溫表のつけ方、吸込のかけ方位は充分出来るやうに教へます。

只今女中教養所に通學してゐます者は、在籍者は二十名ありますが、通學生は十二三名であります。私共四人先生が居りまして、各科を分擔して教へて居りますが、年齢が一定しませんのと、出席が一定

しませんのと、大いに教授上の困難を感じます。年は十六位から二十三歳位までがとまりでございまが、十六位のは學校に通學した經驗から、未だ學問を忘れてゐませんから、大層進みが早うございますが、年上になるにつれ學校の氣がぬけてどうもうまくゆきません。其の上、今日は奥さんが病氣で休むとか、今晚は來客で來られませんとか、色々の差しつかへがあつて、缺席がちな者はどん／＼遅れますから、まるで三人四人と、個人教授のやうな具合に致します。けれども皆熱心でありますから、なんとかして連續させて行きたいと存じて居ります。近頃の女中さんは、徒弟と違ひまして、十圓十五圓の月給はもらつてゐますので、却て獎勵にもならうかと、五十錢の月謝をとつて居ります。この夜學校は二ヶ年修業であります。既に四五名の卒業生を出して居ります。

以上述べました事業が、私共三崎會館に於て行はれて居ります。こちらは、基督教主義でありますので、信者の家庭又は宗教に同情ある人の家庭から、此處へ出入して居ります。精神修養として、聖書をよみ、祈禱をするのを習ごして居りますので未だ基督教に理解のない方々がありますが、ため私共の盡力もひろく及ばず殘念に感じて居ります。